



R431物語 第2回

今回の主人公：パン

(ホームメイド メルシー 松江市西浜佐陀町)

岩田 英作

みなさん、こんにちは。ぼくは、全粒粉の食パン。近くの農家で栽培された小麦から生まれた、メルシー開店当初からのメンバーだ。全粒粉というのは、お米でいえば玄米みたいなもので、小麦のふすま(皮)や胚芽も全部含まれているから、味も栄養もバッチリなのだ。

松江方面からR431を行くと、イングリッシュガーデンの手前にローソンがある。その脇道を左に入ると宍道湖が眼前に広がる。宍道湖に突き当たって左に折れると、すぐそこがぼくの居場所メルシーだ。メルシーに初めて来た人は、「こんなところにパン屋さん！」と、大概びっくりする。お店の雰囲気も、

パンを売っているお店というよりは、パンたちが暮らしている家みたいな感じである。お店に入って来たお客さんは、僕たちを眺めて、なんともいい表情をする。会いたかった人にやっと会えたって感じた。ぼくも「やあ、いらっしやい」と心の中で声をかける。

2007年にご夫婦で始められたこのお店には、定番の食パンやフランスパンをはじめ、フランスパン生地にグ

リーンオリーブの塩漬けがたっぷり入った「オリーブ」、地元産の季節の野菜が入った「フォカッチャ」、ずっしりと餡の入ったあんパンなど、20種類ほどのパンが並ぶ。かつて奥さんはパン学校の先生から、「きみのつくるパンは腕白だから、ひと目でわかる」と言われたことがある。それくらい、ぼくらは元気にあふれた仲間なのだ。

でも、開店当初の一時期、奥さんは、どんなパンをつくったらいいか悩んだことがあった。このとき奥さんを救ってくれたのが、「自分のつくりたいパンをつくれればいいじゃないか」というご主人のひとことだった。それから肩の力がすっと抜けて、奥さんは自信をもってパンづくりに専念できるようになったそうだ。

ある日、こんなことがあった。閉店まぎわにひとりの女性が駆け込んできて、残りの1本のオリーブを見つけて「1本あった」と言ってそのオリーブを抱きしめたのだ。ぼくはそれを見て、オリーブのことがちょっと羨ましくなった。それにしても、そんなにもぼくらのことを楽しみにしてくれている人たちがいるなんて、まったくパン冥利に尽きる。

これからさき、たぶんぼくらの仲間がそんなに増えることはないと思う。でも、いまいる20種類の仲間一人ひとり、おいしさにさらに磨きをかけていくつもりだ。さあ、きょうも、ぼくらは奥さんの愛情いっぱいの手こねられる。宍道湖の波の音をききながら、こねこねされる気分ときたら最高だ。ここで生まれてよかったなあって思う。そして、ぼくは心の底からこう言いたくなる。メルシー！って。

(いわた・えいさく/総合文化学科教員*日本近代文学)



雲南市大東町山王寺

のんびり雲 第5号 2011

巻頭エッセイ◎隣人から見た「出雲」
足立倫行 1

特集◎紙

驚きの連続！ 王子製紙米子工場見学記 2

新聞工場へ行こう
山陰中央新報製作センター 6

加藤紙店 紙と人を繋ぐ 10

本・雑誌ができるまで
今井印刷・日宝総合製本見学記 13

山根和紙資料館 紙の歴史を伝える学校 16

石州和紙に触れる 19

ノート制作 吾郷屋さん 22

想いを紙に 書道 若月響子さん 25

山陰のかまぼこ大試食会 28

バクでまちおこし 島根県川本町 31

堀川遊覧 船頭さんに学ぶ 34

ブルーベリー農園を訪ねて
奥出雲町橋本農園 37

和の心 日本の音 40

魅力いっぱい！ 御来屋の旅 43

一畑電車で行く出会いの旅 46

トロッコ列車「奥出雲おろち号」の旅 51

おおきくなあれ♪ トウガラシ 55

ヤマタノオロチの伝承地探訪 58

Jリーグのクラブを目指して
松江シティフットボールクラブ 61

隣の国にお邪魔します。
韓国 お茶とお菓子の旅 64

一大決心！ アメリカ一人旅 68

ゴムで働く 72

震災後のみちのくで 74

石巻に、のんびり雲のかかる日 77

商店探訪◎水木しげる文庫 80

(まんが) 伝来 83

光を楽しむ
光の演出で住空間をデザインする 87

街のおもしろ文化観察学入門◎鳥取編 88

編集後記 92

R431物語②パン (裏表紙裏)

(表紙：フェリーしらしま)

